

## 平成20年一番茶実収報告

京都府立茶業研究所

### 1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	5月6日	5月8日	5月7日	5月7日
弧状仕立て	5月7日	5月10日	5月7日	5月6日

注) 平年は、平成6年～平成19年までの14年間の値

### 2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	632.3 ± 74.9	108	589.9 ± 91.4	101	584.5 ± 69.7	100
弧状仕立て	340.1 ± 55.4	90	438.1 ± 38.2	116	376.3 ± 51.6	100

### 3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	64.2 ± 7.3	130	46.0 ± 6.0	93	49.2 ± 5.3	100
弧状仕立て	62.6 ± 10.7	108	72.4 ± 3.7	125	57.8 ± 9.5	100

### 4. 新芽数 (本/m<sup>2</sup>)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	416.6 ± 63.8	85	509.8 ± 115.6	104	491.6 ± 73.9	100
弧状仕立て	1161.8 ± 189.0	87	1156.7 ± 196.5	87	1333.0 ± 283.1	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

### 5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	57.1	44.1	47.4
弧状仕立て	60.6	44.2	41.2

## 6. 概要

### (1) 摘採期

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園が5月6日で前年より2日早く、前5か年平均より1日早かった。弧状仕立て園は5月7日で、前年より3日早く、前5か年平均と同日となった。

### (2) 生葉収量

10a 当たりの生葉収量は、自然仕立て園が632kgで前5か年よりやや多く、弧状仕立て園が340kgで前5か年よりやや少なかった。収量構成は、どちらも芽重型であり、芽数が少ない傾向が見られた。

### (3) 病害虫の発生状況

ゴマフボクトウ、クワシロカイガラムシの発生がやや目立った。チャノホソガのフェロモントラップ誘殺数が平年より多かったが、適切な防除により一番茶新芽の実害はなかった。ミカントゲコナジラミが多発した。

### (4) 周辺茶園の状況

一番茶新芽の芽立ちが粗く、摘採の前半は減収傾向となった。

全農京都茶市場への出荷量は、前年比で煎茶10%減、かぶせ茶8%、玉露9%減の状況。てん茶は製茶期間中である。

病害虫の状況は、ミカントゲコナジラミが府南部を中心に多発している。